

三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2015年3月

〒444-3511
岡崎市舞木町狐山6-4
大平仁夫方
三河昆虫研究会発行
(郵便00830-9-14465)

群馬県から飛来したアサギマダラを豊橋で再捕獲

小鹿 亨

アサギマダラ *Parantica sita* Kollar (タテハチョウ科) は、長距離の移動をするチョウとして知られている。その移動経路を調べるために、近年は各地で翅に産地や日付などの情報を書き込む標識(マーキング)による組織的な調査活動が盛んに行われており、標識されたチョウが移動先で再捕獲されることで少しずつ渡りのコースが解明されてきている。筆者は豊橋市でマーキングされた個体を再捕獲・撮影しているのので、記録として報告する。

観察した場所は、豊橋総合動植物公園の中で、自然史博物館の北東側にフジバカマが植栽されている場所がある。この場所に、アサギマダラがよく飛来することを、以前に自然史博物館学芸員の長谷川道明氏に教えていただいた。季節的にもちょうどアサギマダラが低地で見られる時期にあっており、シャッターチャンスを狙ってこの場所を訪れた。

フジバカマが見えてくると、遠目にもその上を飛ぶアサギマダラらしいチョウがいるのがわかる。近づいて、あたりを見渡すと7~8頭のアサギマダラがさかんに吸蜜中であつた。

さっそく、持ってきたコンパクトデジタルカメラを取り出して撮影を始めた。まもなく、後翅に文字が書かれたマーキング個体を見つけた(図1)。この個体も他のアサギマダラたちと同様に、あまり筆者を気にする様子もなく夢中に蜜を吸っており、素手でも容易に捕獲できた(図2)。

判家氏に調べていただいたところによれば、本個体は群馬県嬭恋村の万座スキー場で、平井博氏によってマーキング・放蝶されたものである。2ヶ月弱で230km近くを飛んで豊橋市まで移動し



図1. フジバカマで吸蜜するアサギマダラ (MZ921)



図2. 左前後翅に書き込まれた標識

てきたことになる。

この後は、渥美半島に沿って南下して、海上に飛び出していくのであろうか。しかし、この直後の10月13日前後に大型の台風19号が当地方を通過しており、このチョウが無事に渡りを続けられたかが案じられる。

【標識・再捕獲情報】

標識日：2014年8月20日、標識MZ921。

標識地：群馬県吾妻郡嬭恋村万座スキー場。

標識者：平井博。

三河湾の佐久島と篠島のカメムシ類などの分布記録

浅岡孝知

三河昆虫研究会の第三回佐久島(5/25)、第四回篠島(6/1)の行事で調査に参加してきた。その時の様子や得られた種などについて報告する。参加者は山崎隆弘副会長、判家卓司氏(篠島のみ)と筆者であった。当日は天候にも恵まれ採集日和であった。立案、現地案内などで山崎副会長にお世話になった。両氏に感謝申し上げる。以下は得られた種の目録などである。

I. 佐久島

乗船場がお魚センター発になってから初めての渡島になる。お客さんが多くて9:30発の船が9:20発の臨時便での渡島となる。今若い人たちが芸術の島としてちょっとしたブームになっている。島のあちこちに若い芸術家作のオブジェがあり、それを目当てに若人が訪れている。船は満員である。甲板の上にもお客さんがいる。かつては考えられなかったことである。西港からスタートをしてハイキングロード、日だまりの広場、展望台、水田地帯、海岸そして東港に出る。途中佐久大島にも立ち寄る。滞在時間の関係で佐久弁天島の調査は実施していない。



図1. 新装された一色・佐久島行乗船場

1. 佐久本島 (2014.5.25)

島としては珍しい水田地帯が存在する島であったが、現在では放棄され葦などが繁茂している。その水路も鉄分が多いようで、荒廃化が進んでいる。このようなことから特殊な環境に依存をして

いた種は得られない。

ヒシウンカ科 Cixiidae

1) ヒシウンカ *Pentastiridius apicalis*

(Uhler,1896),(1ex)

クロヒラタヨコバイ科 Penthimiidae

1) クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida*

Lethierry,1876,(1ex)

カスミカメムシ科 Miridae

1) コアオカスミカメ* *Apolygus lucorum*

(Meyer-Dur,1843),(1ex)

サシガメ科 Reduviidae

1) モモブトトビイロサシガメ *Oncocephalus*

femoratus Reuter,1882,(1ex)

ナガカメムシ科 Lygaeidae

1) ヒメマダラナガカメムシ* *Graptostethus*

servus (Fabricius,1787),(1ex)

2) コバネナガカメムシ* *Dimorphopterus pallipes*

(Distant,1883),(3exs)

3) ヒメオオメカメムシ *Geocoris proteus*

Distant,1883,(1ex)

4) オオメカメムシ *Picocoris varius*

(Uhler,1860),(1ex)

5) サビヒョウタンナガカメムシ

Pamerarma rustica (Scott,1874),(1ex)

6) キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius*

lateralis (Scott,1874),(1ex)

メダカナガカメムシ科 Malcidae

1) メダカナガカメムシ* *Chauliops fallax*

Scott,1874,(2exs)

ヘリカメムシ科 Coreidae

1) ホオズキカメムシ *Acanthocoris sordidus*

(Thunberg,1783),(2exs)

2) ホソハリカメムシ *Cletus punctiger*

(Dallas,1852),(3exs)

3) ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca*

(Uhler,1860),(1ex)

ヒメヘリカメムシ科 Rhopalidae

- 1) スカシヒメヘリカメムシ *Liorhyssus hyalimus*
(Fabricius,1794),(1ex)
マルカメムシ科 Plataspidae
- 1) タデマルカメムシ *Coptisoma parvipictum*
Montandon,1893,(1ex)
- 2) マルカメムシ *Megacopta punctatissima*
(Montandon,1894),(1ex)
カメムシ科 Pentatomidae
- 1) アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum*
Westwood,1873),(多数)
- 2) ウズラカメムシ *Aednus fieberi* Scott,1874,(1ex)
- 3) マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttiger*
(Thunberg,1783),(1ex)
- 4) ミナミアオカメムシ *Nezara vividula*
(Linnaeus,1758),(1ex)
- 5) チャバネアオカメムシ *Plautia erossota stali*
Scott,1874,(2exs)
コウチュウ目では、新たにオオキノコムシ科ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami*、ゴミムシダマシ科マルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus*、カミキリムシ科ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii*、ヒトオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus*、ゾウムシ科アルファルファータコゾウムシ *Hypera postica* を追加した。このうち、ヒトオビアラゲカミキリとマルチビゴミムシダマシは他の島での記録がある。
2. 佐久大島 (2014.5.25)
かつての管理された釣センターは無くなっているが、各種のオブジェが配置されていて訪れる人が絶えない。島の中央は草地化していてやや乾燥している。島の周りを調べることになる。
サシガメ科 Reduviidae
- 1) トゲサシガメ * *Polididus armatissimus*
Stal,1859,(1ex) 三河湾の島では初めて記録したが、愛知県全体に広く分布している。
ヘリカメムシ科 Coreidae
- 1) ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg,1783),(1ex)
マルカメムシ科 Plataspidae
- 1) マルカメムシ *Megacopta punctatissima*
(Montandon,1894),(1ex)

カメムシ科 Pentatomidae

- 1) ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus*
Walker,1867,(1ex)

- 2) チャバネアオカメムシ *Plautia erossota stali*
Scott,1874,(1ex)

コウチュウ目では、コメツキムシ科ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* を追加した。他の島で記録がある。

II. 篠島

上陸後、中手島から小磯島、本島を巡る。こちらでも港周辺がきれいになっているので多くの客が訪れるようになっている。クラブツーリズムの団体客もいる。ただ元の漁港あたりの店や民宿は元気がないようである。また、廃業したケイマンゴルフ場は雑草が繁茂し原野に戻りつつあるので、中に入って調査ができないことが残念である。

1. 中手島 (2014.6.1)

一本の道を隔てて立地する陸続きの島である。御贄干鯛調整所の神社があるため現状が維持されている。社までの参道は確保されているが、他の脇道はない。調査しにくいところである。

オオホシカメムシ科 Largidae

- 1) オオホシカメムシ * *Physopelta gutta*
(Burmeister,1834),(1ex)

ヘリカメムシ科 Coreidae

- 1) ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg,1783),(1ex)

カメムシ科 Pentatomidae

- 1) マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttiger*
(Thunberg,1783),(1ex)

コウチュウ目では、カミキリムシ科ホソキリンゴカミキリ *Oberea infranigrescens* を追加する。

2. 小磯島 (2014.6.1)

島といっても完全に本島と一体化して言わば高台である。一部崩落個所があるためか階段が閉鎖されていたが、入り込んで調査をする。かつての北山公園の休憩所はかなり荒れ果てているが、まだ補修工事は可能である。

ヘリカメムシ科 Coreidae

- 1) ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus*

unipunctatus (Thunberg,1783).(1ex)

マルカメムシ科 Plataspidae

1) マルカメムシ *Megacopta punctatissima*

(Montandon,1894).(1ex)

カメムシ科 Pentatomidae

1) ツヤアオカメムシ* *Glaucias subpunctatus*

Walker,1867.(1ex)

2) チャバネアオカメムシ* *Plautia crossota stali*

Scott,1874.(1ex)

エビイロカメムシ科 Phyllocephalidae

1) エビイロカメムシ *Gonopsis affinis*

(Uhler,1860).(1ex)

コウチュウ目では、タマムシ科ヒメヒラタタマムシ *Anthaxia proteus*、テントウムシ科ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*、カミキリムシ科ホソキリゴカミキリ *Oberea infranigrescens*、ゾウムシ科トビイロヒョウタンゾウムシ *Scepticus uniformis* を追加する。

3. 篠島本島 (2014.6.1)

歌碑公園奥の風光明媚な場所にあった展望台は無残な姿になって閉鎖されている。万葉の丘から海岸に降りることができる。鯨浜と言い、海浜の昆虫を探してみるが、打ち上げられた海草類も少なく、生息の可能性のあるシロヘリハンミョウなどは確認できない。展望台の手前では久しぶりにオオキンカメムシに出会えて感激する。

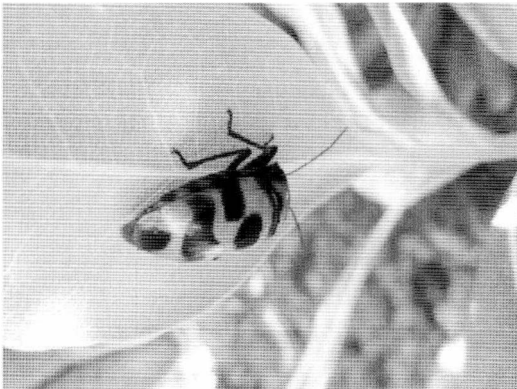


図2. 葉裏に潜むオオキンカメムシ

ナガカメムシ科 Lygaeidae

1) ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus*

Distant,1883.(2exs)

2) ホソコバネナガカメムシ *Macropses obnubilus*

(Distant,1883).(2exs)

3) オオモンシロナガカメムシ *Metochus*

abbreviatus (Scott,1874).(1ex)

ヘリカメムシ科 Coreidae

1) ツマキヘリカメムシ* *Hygia opaca*

(Uhler,1860).(2exs)

マルカメムシ科 Plataspidae

1) マルカメムシ *Megacopta punctatissima*

(Montandon,1894).(1ex)

ツチカメムシ科 Cydnidae

1) ヒメツチカメムシ *Geotomus pygmaeus*

(Dallas,1851).(1ex)

キンカメムシ科 Scutelleridae

1) オオキンカメムシ *Eucorysses grandis*

(Thunberg,1783).(1ex) 図参照。三河湾の島では、

野島で確認されている大型のキンカメムシである。かなり遠方まで飛翔することが知られている。

カメムシ科 Pentatomidae

1) アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum*

(Westwood,1873).(3exs) ハマウドの花穂に多く

飛来している。

2) ツヤアオカメムシ* *Glaucias subpunctatus*

Walker,1867.(1ex)

3) チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali*

Scott,1874.(1ex)

ツノカメムシ科 Acanthomatidae

1) アオモンカメムシ* *Elasmostethus nubillum*

(Dallas,1851).(1ex)

コウチュウ目では、カツオブシムシ科ヒメマルカツオブシムシ *Anthrenus verbasci* を追加する。他の島では記録がある。

以上の中で、山崎・浅岡 (1990) 三河湾・島の昆虫以後で見いだされた種については*を記している。

参考文献

山崎隆弘・浅岡孝知 (1990) 三河湾・島の昆虫 (自刊)

小呂湿地で記録された特色ある蝶類について

杉坂美典

1 はじめに

小呂湿地は名前のとおり、岡崎市小呂町にある湿地である。岡崎市の東部にある北山湿地ほどは大きくないが、市が所有する土地にあり、湿地の中は木道が整備され、動植物の採取は禁止されている。

2 特色ある蝶類

(1) オオヒカゲ



♀ 岡崎市小呂町, 2013年9月24日



♀ 岡崎市小呂町, 2014年7月15日

①岡崎市での記録と分布状況

- ・1983 7-IX, 田口町, 1♀, 三浦重光
- 8-IX, 田口町, 1♀, 三浦重光
- ・1994 2-VII, 須測町, 1♂, 杉坂美典
- ・1997 30-VI, 須測町, 2♂♂, 杉坂美典
- ・2001 10-VII, 奥殿町, 1♀, 鈴木栄二
- ・2002 7-IX, 奥殿町, 1♂, 川瀬弘幸

- ・2003 17-VI, 高隆寺町, 1♂1♀, 柵木宗孝
- ・2008 10-VII, 蔵次町, 1♂, 伊藤啓司
- 21-VII, 蔵次町, 1♂, 伊藤啓司
- ・2011 3-VII, ハッ木町, 1♂, 杉坂美典
- ・2012 24-VI, 小呂町, 1♂, 杉坂美典
- ・2013 24-VI, 小呂町, 1♀, 杉坂美典
- 24-IX, 小呂町, 1♀, 杉坂美典
- ・2014 15-VII, 小呂町, 1♀, 杉坂美典

岡崎市では、東北部の山地に局部的に発生しており、北部、中部、東部の3つの発生地がある。北部の発生地は、奥殿町、ハッ木町である。中部の発生地は、小呂町、高隆寺町、田口町、秦梨町、須測町、蔵次町である。東部の発生地は、石原町である。

1980年代から2013年まで各所で記録が出ているが個体数は少なく、年間数頭の記録が出る程度である。

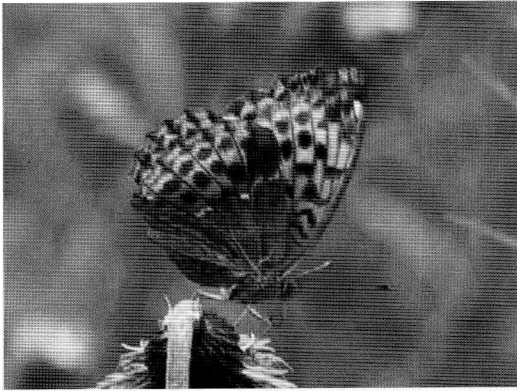
②小呂湿地での記録

小呂湿地で本種が記録されたのは2012年が最初である。2013年には6月だけではなく、9月下旬にも記録され、2014年は7月に記録された。小呂湿地で発生をくり返し、定着しているものと思われる。

(2) オオウラギンスジヒョウモン



♂ 岡崎市小呂町, 2013年9月24日



♀ 岡崎市小呂町, 2013年10月1日

①岡崎市での記録と分布状況

- ・1976 23-X, 小呂町, 1♀, 阿江茂
- ・1978 15-VI, 池金町, 1♂, 杉坂美典
VI, 美合町, 1♂, 竹本秀邦
- ・1979 12-VIII, 本宿町, 1♀, 松井直人
- ・1981 24-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・1982 16-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
17-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・2003 7-VI, 高隆寺町, 1♂, 柵木宗孝
30-IX, 高隆寺町, 2♀♀, 柵木宗孝
- ・2010 6-VI, 高隆寺町, 1♂, 杉坂美典
- ・2011 9-X, ハツ木町, 1ex, 三浦重光
- ・2013 24-IX, 小呂町, 1♂, 杉坂美典
1-X, 小呂町, 1♀, 杉坂美典

岡崎市では、1970年代、1980年代では、小呂町、池金町、美合町、本宿町、高隆寺町などで発生しており、数頭がアザミの花に集まっているのを確認することができた。しかし、2000年を過ぎたころから記録が少なくなり、現在では、小呂町、ハツ木町などで、年間に数頭の記録が辛うじて出る程度になった。

②小呂湿地での記録

小呂湿地では、1976年に本種が記録されているが、その後は記録が出なかった。2013年の6月～7月にかけて3回調査を行ったが見つからなかった。しかし、秋の調査では、1♂1♀が記録され、少ないながらも継続して発生していると思われる。

(3) ミドリヒョウモン



♂ 岡崎市小呂町, 2013年10月1日



♀ 岡崎市小呂町, 2014年9月22日

①岡崎市での記録と分布状況

- ・1976 4-VII, 大幡町, 1♂, 杉坂美典
- ・1978 18-VI, 池金町, 1♂, 杉坂美典
- ・1979 9-VIII, 奥山田町, 1♂, 杉坂美典
- ・1981 23-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
24-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・1982 17-VI, 本宿町, 1♀, 松井直人
- ・1989 9-VII, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・1992 12-VI, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・1998 17-IX, 井内町, 1♂, 杉坂美典
- ・2001 20-IX, 戸崎町, 2♂♂, 杉坂美典
25-IX, 戸崎町, 1♂, 杉坂美典
- ・2003 16-IX, 高隆寺町, 1♀, 柵木宗孝
- ・2007 10-X, 秦梨町, 1♀, 杉坂美典
- ・2010 26-IX, 池金町, 1♂1♀, 杉坂美典
- ・2013 24-IX, 小呂町, 5♂♂, 杉坂美典
1-X, 小呂町, 3♂♂2♀♀, 杉坂美典
- ・2014 22-IX, 小呂町, 3♂♂4♀♀, 杉坂美典
30-IX, 本宮山, 2♂♂3♀♀, 杉坂美典

岡崎市では、ツマグロヒョウモン以外のヒョウモンチョウ類が激減する中で、かろうじて記録が出続けている種である。特に、最近では、各所で多産するようになった。

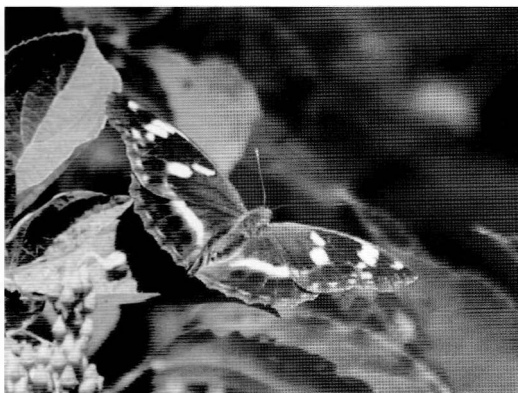
②小呂湿地での記録

2013年初夏の調査では見つけることができなかったが、秋には湿地内のアザミの花に数頭の個体が訪花している様子が確認できた。2014年も初夏の調査では記録できなかったが、秋には、多数の個体を確認することができた。初夏に市内の各所で発生した個体が夏眠をした後、小呂湿地に集まっているように思える。

(4) メスグロヒョウモン



♀ 岡崎市小呂町, 2014年9月22日



♀ 岡崎市小呂町, 2014年9月22日

①岡崎市での記録と分布状況

- ・1979 10-Ⅵ, 池金町, 1♂, 杉坂美典
- 17-Ⅵ, 池金町, 1♂, 杉坂美典
- 19-Ⅵ, 板田町, 1♂4♀♀, 三浦重光
- 12-Ⅷ, 本宿町, 1♀, 松井直人

- ・1980 18-V, 須測町, 1♂, 杉坂美典
- 12-VⅦ, 本宿町, 1♂, 松井直人
- ・1981 31-V, 山綱町, 1♀, 杉坂美典
- 21-VⅥ, 大幡町, 1♂, 杉坂美典
- 24-VⅥ, 本宿町, 2♂♂, 松井直人
- 28-VⅥ, 大幡町, 3♂♂, 杉坂美典
- ・1982 17-VⅥ, 本宿町, 1♀, 松井直人
- ・1989 9-VⅦ, 本宿町, 1♀, 松井直人
- ・1994 21-V, 須測町, 1♂, 杉坂美典
- ・2011 26-X, ハツ木町, 1♀, 三浦重光
- ・2014 22-Ⅸ, 小呂町, 1♀, 杉坂美典

岡崎市では、かつては少ない蝶ではなかったが、1994年に記録して以来、17年間、記録が出なかった。これは、本種の発生数が少ないことや同定が難しいことによるものと思われる。しかし、最近では2例の記録が出ており、5月中旬から7月上旬と夏眠後の9月中旬から10月にかけて、ハツ木町、小呂町、池金町、本宿町周辺での調査で、記録される可能性は大きいと思われる。

②小呂湿地での記録

2009年から初夏と秋には、数回、小呂湿地の調査を行ってきたが、本種を見つけることができなかった。しかし、2014年の秋に初めて記録することができた。確認できたのは、翅の一部が破損している♀で、小呂町周辺のスマレ類に産卵している可能性は高く、来年の発生が期待される。

3. おわりに

小呂湿地は、車で行く場合は、案内の看板や駐車場がないため、湿地の場所が分かりにくいという状況にある。しかし、湿地へ最も近い場所の道路の幅は広く、数台は十分に駐車することができる。そこから10分ほどで湿地に着くことができるので便利である。湿地へ来られる多くの方々は、東公園に車を置いて、岡崎の古道・道根往還を通り、自然観察をしながら歩いて来られている。

小呂湿地には、貴重な動植物が豊富に生息しており、私たちは、この環境をいつまでも保全していかななくてはならないと思う。

大平仁夫先生採集の南西諸島からのハムシ科の記録

山崎隆弘

この度、大平仁夫先生が琉球列島の学術調査の際に、南西諸島から採集されたハムシ科の所蔵標本を見せてくださった。これらは幾年月にわたる貴重な採集品で、筆者自身も数回にわたり調査を試みているが、採集出来なかったものが少なからず含まれていた。後日になって幸運にもそれらを恵与して戴けることとなった。併せて、会誌に掲載させて頂きたいとお話を申し上げたところ、快く承諾をしてくださったのでここに記録することとした。これが同好の諸氏に多少なりとも参考になるならば幸いである。この機会を与えて頂いた大平仁夫先生には、心から感謝の意とお礼を申し上げる次第である。

採集品目録 (南西諸島のハムシ科)

ここに記録したハムシ科標本は、すべて大平仁夫先生の採集によるものであり、採集者については省略してある。現在、標本は筆者が保管している。

中之島 (鹿児島県鹿児島郡十島村)

トカラ列島最大の有人島で、周囲 28.0 km、面積 27.54 k m² で、戦前には硫黄が採掘されていた。また、トカラ富士で知られる御岳 (標高 979 m)

があり、底なし沼と呼ばれる御池や温泉がある。

1. キボシツツハムシ (離島型) *Cryptocephalus perelegans insularis*, Chûjô.1935 [図. 3] 中之島から先島諸島にかけてと、台湾に分布していて、コナラ、カエデ、モクダチバナにいます。色彩や斑紋は変異に富む。2exs., 御岳, 26, VII, 1995.
2. アオガネヒメサルハムシ *Nodina chalcosoma* Baly.1874 愛知県にも分布していて、ブドウやノボタンなどにいるが、本州以南の南西諸島に広く分布している。22exs., 御岳, 26, VII, 1995.
3. オキナワイモサルハムシ *Colasposoma auripenne* (Motschulsky,1860) 屋久島以南からトカラをへて先島諸島に分布し、中国、ベトナムまで分布する。サツマイモやゲンバイヒルガオにいる普通種。1ex., 里村, 26, VII, 1995.
4. セアカケブカサルハムシ *Lypsthes fulvus* (Baly.1878) [図. 9] 四国・九州以南から先島諸島まで分布しているが、台湾にもいる。1ex., 里村, 26, VII, 1995.
5. ハマゴウハムシ *Phora octodecimguttata* (Fabricius.1775) [図. 13] 九州南部以南から東南アジアの広い範囲に分布し、海浜のハマゴ



図1.
オキナワクビナガハムシ
宝島赤木崎
(31. VII. 1995)

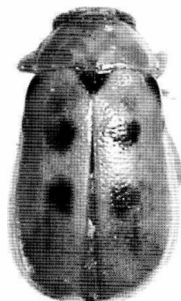


図2.
アザミナガツツハムシ
奄美大島宇検村
(2. V. 1994)

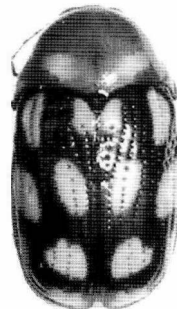


図3.
キボシツツハムシ
(離島型) 奄美大島宇検村
(2. V. 1994)

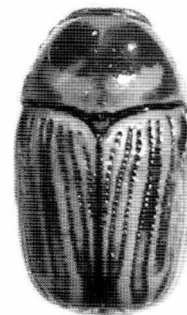


図4.
リュウキュウツツハムシ
西表島インダ
(6. VIII. 1968)

ウの葉上に普通。2exs., 御岳, 26, VII, 1995; 4exs., 里村, 26, VII, 1995.

6. ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin,1790)
愛知県にも多くいて、各地のウリ類などを被害する。3exs., 里村, 26, VII, 1995.
7. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea* (Schonfeldt,1890) 沖永良部島以南から先島諸島にかけて分布し、ガジュマルに多くみられる普通種。1ex., 里村, 26, VII, 1995.
8. キイロクワハムシ *Monolepta pallidula* (Baly,1874) 本州以南から台湾にかけてのクワ、コナラ、タラノキにいる普通種。3exs., 御岳, 26, VII, 1995.
9. キベリヒラタノミハムシ *Hemipyxis cinctipennis* Weise,1890 屋久島からトカラ、奄美大島に分布し、クサギに普通。1ex., 御岳, 26, VII, 1995.

宝島 (鹿児島県鹿児島郡十島村)

琉球石灰岩の島で、周囲 12.1 km、面積 5.94 km²の有人島である。最高地点はイマキラ岳 (標高 292 m)、湖沼では大池、小池がある。天候により渡島が制約されることもしばしばある秘境の島である。

1. オキナワクビナガハムシ *Lilioceris neptis* (Weuse,1922) 琉球や台湾にかけて分布するが、本島での記録は貴重である。1ex., 宝島, 31, VII, 1995; 1ex., 赤木崎, 31, VII, 1995.
2. ハマゴウハムシ *Phora octodecimguttata* (Fabricius,1775) 中之島からも得られている普通種。2exs., 大池, 30, VII, 1995; 8exs., 宝島, 31, VII, 1995; 1ex., 赤木崎, 31, VII, 1995.
3. ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin,1790) 中之島、奄美大島、石垣島、与那国島からも得られているウリ類の害虫。4exs., 宝島, 31, VII, 1995; 3exs., 赤木崎, 31, VII, 1995; 1ex., 女神山, 31, VII, 1995.

奄美大島 (鹿児島県奄美市・大島郡)

奄美諸島の行政や産業の中心で、周囲 461.0 km²、面積 719.50 km²である。島内には湯湾岳 (標高

694 m) をはじめ、400 mを越える山地も多くあり、入り江や河川などで複雑な地形を成していて、貴重な動植物が多く棲む亜熱帯の島である。

1. アザミナガツハムシ *Smaragdina quadratomaculata* (Jacoby,1896) [図, 2] 奄美大島と沖縄本島に分布し、シマアザミにいる。3exs., 湯湾岳, 30, IV, 1994; 6exs., 宇検村, 2, V, 1994.
2. キボシツツハムシ (離島型) *Cryptocephalus perelegans perelegans insularis*, Chûjô,1935 [図, 3] 中之島、久米島、石垣島からも得られている。4exs., 宇検村, 1, V, 1994; 3exs., 宇検村, 2, V, 1994; 1ex., 湯湾岳, 25, VII, 1994.
3. アマミコブハムシ *Chalamisus geniculatus* (Jacoby,1896) [図, 5] 九州以南、屋久島、奄美大島、沖縄本島に分布し、ホウロクイチゴにいる。1ex., 宇検村, 1, V, 1994; 1ex., 金作林, 31, VII, 1994.
4. リュウキウツツヤハムシ *Oomorhoides lochoensis* Chûjô,1958 屋久島、奄美大島に分布し、フカノキにいる小形種。5exs., 宇検村, 1, V, 1991; 2exs., 宇検村, 2, V, 1991.
5. ダビットサルハムシ *Basilepta davidi* (Lefere, 1877) [図, 6] トカラ列島以南の南西諸島から東南アジアまで分布する。6exs., 中央林道, 27, VII, 1994; 2exs., 宇検村, 2, V, 1994.
6. シワドウガネサルハムシ *Scelodonta sauteri* Chûjô,1938 [図, 7] 九州南部からトカラや台湾に分布する。2exs., 宇検村, 2, V, 1994.
7. オキナワトビサルハムシ *Trichochrysea japana okinawana* Nakane,1956 奄美大島以南から台湾にかけて分布する。2exs., 宇検村, 1, V, 1994; 6exs., 宇検村, 2, V, 1994; 2exs., 金作林, 29, VII, 1994; 1ex., 湯湾岳, 30, VII, 1994.
8. セアカケブカサルハムシ *Lypesthes fulvus* (Baly,1878) [図, 9] 四国、九州から琉球や台湾まで分布する。2exs., 湯湾岳, 30, IV, 1994.

9. オオミドリサルハムシ *Platycorynus japonicus* (Jacoby,1896) [図, 10] 奄美大島、沖縄本島、先島諸島に分布する美麗種。lex., 油井岳, 29, VII, 1994.
10. シヤシャンボサルハムシ *Colaspoides fulva* (Chûjô,1935) [図, 11] 屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄本島、先島諸島などに分布する。2exs., 油井岳, 29, VII, 1994; lex., 油井岳, 30, VII, 1994.
11. ヨモギハムシ *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim,1825) 外国を含めて広域に分布する普通種。色彩変異があり、この個体はアオグロ色の原型である。lex., 湯湾岳, 25, VII, 1994.
12. ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin,1790) 多くの島嶼で得られているウリ類の害虫。lex., 宇検村, 2, V, 1994.
13. フタイロウリハムシ *Aulacophora bicolor* (Weber,1801) 沖永良部島以南から台湾、東南アジアなどに分布しているウリ類の害虫。lex., 宇検村, 6, V, 1967; lex., 八津野, 5, V, 1967; lex., 住用村, 4, V, 1967.
14. クロウリハムシ南西諸島亜種 *Aulacophora nigripennis nitidipennis* Chûjô,1935 [図, 14] 奄美大島、徳之島、沖縄本島や先島諸島などに分布する。上翅は青色をしている。lex., 宇検村, 1, V, 1994; lex., 宇検村, 2, V, 1994.
15. ルリバネウリハムシ *Aulacophora loochooensis* Chûjô,1957 [図, 15] 奄美大島にいてウリ類の害虫。クロウリハムシ南西諸島亜種に似るがやや大きい。lex., 宇検村, 2, V, 1994; 4exs., 湯湾岳, 30, VII, 1994; 3exs., 湯湾岳, 31, VII, 1994; lex., 宇検村林道, 23, VII, 1994.
16. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea* (Schonfeldt,1890) 各島から得られている普通種。lex., 湯湾岳, 28, VII, 1994; 9exs., 湯湾岳, 30, IV, 1994; lex., 湯湾岳, 31, VII, 1994; 13exs., 宇検村, 7, V, 1967; lex., 油井岳, 26, VII, 1994; lex., 油井岳, 28, VII, 1994.
17. アマミキバラヒメハムシ *Exoma amamiense* (Nakane et Kimoto,1961) 奄美大島以南から先島諸島にかけて分布する。lex., 油井岳, 24, VII, 1994.
18. アオバヒメハムシ *Epaenidea elegans* Kimdto et Glessitt,1966 奄美大島にいるが多くない。lex., 湯湾岳, 31, VII, 1994.
19. カミナリハムシ *Altica Cyanea* (Weber,1801) 愛知県にも多くいて、本州以南から東南アジアまで分布する普通種。lex., 宇検村, 2, V, 1994.
20. キイロミゾアシノミハムシ *Hemipyxis foveolata* (Chûjô,1958) 奄美大島以南から宮古島に分布し、リュウキュウモチにいる。3exs., 湯湾岳, 30, IV, 1994; lex., 湯湾岳, 30, VII, 1994.
21. キベリヒラタノミハムシ *Hemipyxis cinctipennis* Weise,1890 中之島、奄美大島からも得られている。沖縄には亜種 *okinawana* がいる。13exs., 宇検村, 2, V, 1994; lex., 油井岳, 29, VII, 1994.
22. セモンジンガサハムシ *Cassida versicolor* (Boheman,1855) 愛知県でもサクラにみられ生時は金色に輝く美麗種である。広く東南アジア方面まで分布する。lex., 宇検村, 2, V, 1994.
- 徳之島(鹿児島県大島郡)
奄美大島に次ぐ大きな島で、周囲 89.4 km、面積 247.88 km² である。山地が多くを占めていて、天城岳(標高 533 m)、三方道岳(標高 496 m)、美名田山(標高 438 m) などがある。
1. アマミコブハムシ *Chalamisus geniculatus* (Jacoby,1896) [図, 5] 奄美大島にも分布する。3exs., 三京, 2, V, 1995.
2. ダビットサルハムシ *Basilepta davidi* (Lefere, 1877) [図, 6] 奄美大島からも得られている。15exs., 天城町三京, 2, V, 1995.
3. オキナワトビサルハムシ *Trichochrysea japana okinawana* Nakane,1956 [図, 7] 奄美大島からも得られている。4exs., 天城町三京, 2-5, V, 1995.
4. アカガネサルハムシ奄美・沖縄亜種 *Acrothinium gaschkevitcii shirakii* Nakane,1956 [図, 8] 奄



図5.
アマミコブハムシ
徳之島三京
(2. V. 1995)

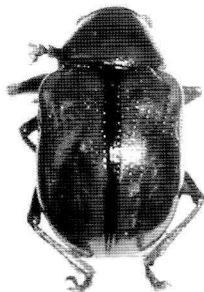


図6.
ダビットサルハムシ
徳之島金見
(2-5. V. 1995)

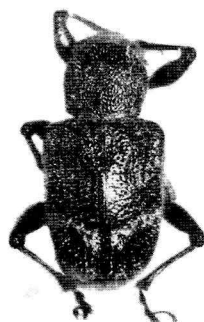


図7.
オキナワトビサルハムシ
奄美大島宇検村
(2. V. 1994)



図8.
アカガネサルハムシ
奄美・沖縄亜種徳之島金見
(2. V. 1995)

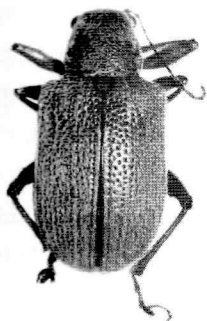


図9.
セアカケブカサルハムシ
久米島
(1-3. V. 1996)

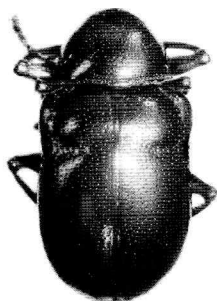


図10.
オオミドリサルハムシ
久米島
(1-3. V. 1996)

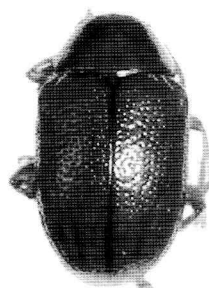


図11.
シャシャンボサルハムシ
奄美大島湯湾岳
(30. VII. 1994)

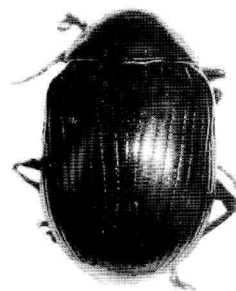


図12.
モモプトサルハムシ
石垣島於茂登岳
(30. VI. 1995)



図13.
ハマゴウハムシ
宝島
(31. VII. 1995)

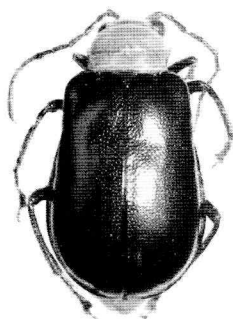


図14.
クロウリハムシ
奄美大島宇検村南西諸島亜種
(2. V. 1994)

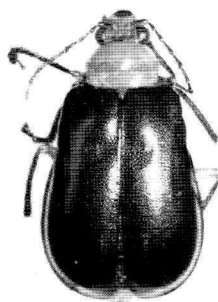


図15.
ルリバナウリハムシ
奄美大島湯湾岳
(31. VII. 1994)

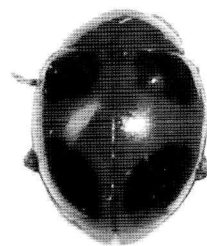


図16.
ヨツモンタマノミハムシ
沖縄本島中城
(31. VII. 1968)

- 美大島、沖縄本島に分布する美麗種であるが、ブドウを加害する。4exs., 金見, 2-5, V, 1995.
5. クロウリハムシ南西諸島亜種 *Aulacophora nigripennis nitidipennis* Chûjô,1935 [図, 14] 奄美大島、沖縄本島からも得られている。1ex., 天城町三京, 2-5, V, 1995.
6. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea* (Schonfeldt,1890) 各地で得られている普通種。1ex., 天城町三京, 2-5, V, 1995; 1ex., 金見, 3-5, V, 1995.

沖縄本島(沖縄県)

沖縄県の行政・経済・観光の中心である。島内には亜熱帯の植物が生い茂り、海岸部も海浜性の種や、南方系のものが多く、ヤンバルテナゴコガネ、コノハチヨウなどが生息するなど貴重な昆虫の宝庫である。

1. セアカケブカサルハムシ *Lypesthes fulvus* (Baly,1878) [図, 9] 奄美大島や久米島からも得られている。2exs., 国頭村辺土名, 27-30, V, 1996.
2. アカガネサルハムシ奄美・沖縄亜種 *Acrothinium gaschkevitcii shirakii* Nakane,1956 [図, 8] 徳之島でも得られている。2exs., 国頭村辺土名, 27-30, V, 1996.
3. オキナワアオバホソハムシ *Apophyllia elongata* (Jacoby,1896) 奄美大島と沖縄本島に分布するが少ない。1ex., 国頭村辺土名, 27-30, V, 1996.
4. クロウリハムシ南西諸島亜種 *Aulacophora nigripennis nitidipennis* Chûjô,1935 [図, 14] 奄美大島と徳之島からも得られている。3exs., 国頭村辺土名 27-30, V, 1996.
5. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum* Chûjô,1935 [図, 16] 九州、屋久島以南から先島諸島にかけて分布していて、ボタンヅルにいる。11exs., 中城, 31, VII, 1968.
6. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea* (Schonfeldt,1890) 南西諸島に分布する普通種。5exs., 国頭村辺土名, 29-30, V, 1996.

久米島(沖縄県島尻郡)

水に恵まれた島で、周囲 47.6 km、面積 58.82 k で、島内にはイーフビーチ、ダルマ山公園などの名勝も多くあり、フサキナ山(標高 220 m)や、中心部には幾つかの湖沼が存在する。久米島からは山崎(2003)による 11 種の記録がある。

1. キボシツツハムシ(離島型) *Cryptocephalus perelegans insularis*, Chûjô,1935 [図, 3] 中之島、奄美大島、石垣島からも得られている。28exs., 久米島, 1-3, V, 1996.
2. ドウイロムナゲサルハムシ *Basilepta uenoi* Naka-ne,1958 トカラ列島、奄美大島、沖縄本島に分布する。9exs., 久米島, 1-3, V, 1996.
3. オキナワイモサルハムシ *Colasposoma auripennis* (Motschulsky,1860) 中之島、与那国島からも得られている。9exs., 久米島, 1-3, V, 1996.
4. セアカケブカサルハムシ *Lypesthes fulvus* (Baly,1878) [図, 9] 奄美大島、沖縄本島からも得られている。2exs., 久米島, 1-3, V, 1996.
5. オオミドリサルハムシ *Platycorynus japonicus* (Jacoby,1896) [図, 10] 奄美大島からも得られている美麗種。7exs., 久米島, 1-3, V, 1996.
6. ホソセスジハムシ *Haplosomoides costata* (Baly,1978) 奄美大島以南から沖縄本島をへて、東南アジアのベトナムまでの広域分布種で、クサギ類にいる。1ex., 久米島, 1-3, V, 1996.
7. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum* Chûjô,1935 [図, 16] 沖縄本島、石垣島からも得られている普通種。1ex., 久米島, 1-3, V, 1996.
8. イチモンジカメノコハムシ *Thlaspida cribrosa* (Boheman,1855) 沖縄本島からも得られている。1ex., 久米島, 1-3, V, 1996.

石垣島(沖縄県石垣市)

沖縄本島的那覇から南西 411 km で、周囲 162.2 km、面積 222.46 k m² の自然豊かな島である。日本最南の文化都市で八重山の中心である。最高峰の於茂登岳(標高 526 m)、安良山(標高 365 m)や、米原のヤエヤマヤシ群落、南国の景勝地川平湾が

ある。

1. キボシツツハムシ (離島型) *Cryptocephalus perelegans insularis*. Chûjô, 1935 [図, 3] 中之島、奄美大島、久米島からも得られている。上翅の斑紋には変異がある。lex., 石垣島, 30, VI, 1995.
2. モモブトサルハムシ *Rhyparida sakisimensis* Yuasa, 1930 [図, 12] 宮古島から先島諸島に分布し台湾にもいる。lex., 於茂登岳, 30, VI, 1995; lex., 米原, 2, VII, 1995.
3. ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin, 1790) ウリ類の害虫。lex., 於茂登岳, 3, VII, 1968.
4. ヨツモンタマノミハムシ *Sphaeroderma quadrimaculatum* Chûjô, 1935 [図, 16] 沖縄本島、久米島からも得られている。8exs., 於茂登岳, 25, I, 1976; 11exs., 於茂登岳, 3, VIII, 1968.
5. ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) 沖縄本島以南から東南アジアまで分布し、サツマイモやノアサガオにいる普通種。lex., 川平, 1-2, VI, 1996; lex., 於茂登岳, 30, VI, 1995; lex., 於茂登岳, 2, VII, 1995.

西表島 (沖縄県八重山郡竹富町)

石垣島の西 30 km にあり、周囲 130.0 km、面積 289.27 km² で、東洋のアマゾンとして知られている。亜熱帯のジャングル内にはイリオモテヤマネコが棲息し、サキシマスオウノキ、ヤエヤマヤシ群落、仲間川河口のマングローブの密林や、浦内川の豪快なカンピラとマリウドの滝がある。

1. リュウキュウツツハムシ *Cryptocephalus lochoensis lochoensis* Chûjô, 1935 [図, 4] 沖縄本島から先島諸島にかけて分布していて、モクタチバナにいます。lex., インダ, 6, VIII, 1968.
2. キイロミゾアシノミハムシ *Hemipyxis foveolata* (Chûjô, 1958) 奄美大島、沖縄本島、久米島、宮古島に分布していて、リュウキュウモチにいます。lex., インダ, 5, VIII, 1968.
3. ヨツモンミゾアシノミハムシ *Hemipyxis balyi*

yaeyamana Kimkto, 1978 先島諸島に分布する。lex., インダ, 5, VIII, 1968; lex., インダ, 6, VIII, 1968.

与那国島 (沖縄県八重山郡与那国町)

日本列島の最西端の国境の島で、周囲 27.5 km、面積 28.84 km² である。最高地点の宇良部岳 (標高 231 m) をはじめ、久部良岳 (標高 192 m) がある。

1. オキナワイモサルハムシ *Colasposoma auripennis* (Motschulsky, 1860) 中之島、久米島からも得られている。lex., 宇良部岳, 29-31, V, 1996.
2. ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin, 1790) 各地に多い普通種。3exs., 宇良部岳, 29-31, VII, 1968.
3. オキナワイチモンジハムシ *Morphosphaera coerulea* (Schonfeldt, 1890) 各島から得られている普通種。lex., 宇良部岳, 29-31, VII, 1968.
4. ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) 石垣島からも得られている。3exs., 宇良部岳, 29-31, VII, 1968.

現在、離島における採集にあたっては、許可を必要とする地域も少なくないので、事前に確認をとってから計画を立て、進めることが不可欠である。

引用文献

1. 愛知教育大学八重山諸島自然科学調査団, 1969. はてま森, 73pp. 愛知教育大学八重山諸島自然科学調査団.
2. 東 清二・金城正勝, 1987. 沖縄産昆虫目録, 422pp. (沖縄生物学会)
3. 浅岡孝知, 2012. 日本の鳥嶼への誘い, 230pp.
4. 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説, 539pp. (東海大学出版会)
5. 「SHIMADASU」編集委員会, 1994. SHIMADASU '94, 831pp. 財団法人 日本離島センター.
6. 山崎隆弘, 2003. 沖縄県久米島のハムシ類, 蟲譜, 24-25. (三河生物同好会)

設楽ダムに水没する河川で採集した希少種のキボシツブゲンゴロウ

市川靖浩

キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus nipponensis* (KAMIYA, 1938) (図1) は、体長 3.0 ~ 3.2 mm の小型のゲンゴロウで本州、四国、九州に分布するが稀な種である(森・北山, 2002)。本種は環境省(2012)の第4次レッドリストでは準絶滅危惧(N T)に選定されている。

愛知県における本種の初記録は、北設楽郡設楽町豊邦当貝津川から上手・池田(2010)によって報告された。筆者は北設楽郡設楽町で工事が進められている「設楽ダム」の貯水予定区域において水生昆虫の調査を実施している。この調査で豊川水系の境川から本種を確認した。上手・池田(2010)の記録以降、本種の記録は見当たらないため愛知県2例目の記録として報告する。

本稿を草するにあたり情報提供をいただいた名古屋昆虫同好会幹事の池竹弘旭氏に感謝し上げる。

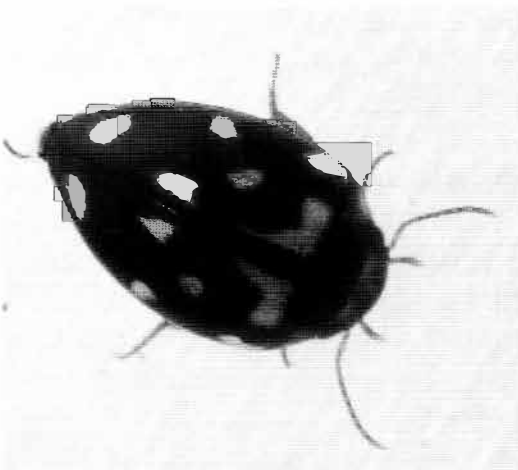


図1. キボシツブゲンゴロウ

<記録>

2頭, 21. IX .2014, 北設楽郡設楽町八橋(境川), 市川靖浩採集・保管; 1頭, 18. X .2014, 北設楽郡設楽町川向(境川), 市川靖浩採集・保管。

採集した場所は、ともに豊川支流境川の本流で、岸辺付近の植物の根際(図2)と岩陰からであった。



図2. 採集環境(岸辺の植物の根際)

本種が得られた2地点はいずれも設楽ダム貯水予定区域に該当する。全国的にも生息地点が少なく、希少種として知られる本種であるが故に、今回確認した生息地が将来的にダムに沈むことは残念である。境川の貯水予定区域以外に本種の生息場所があることを願うものである。

引用文献

- 上手雄貴・池田都志也(2010) 愛知県におけるキボシツブゲンゴロウの記録. 甲虫ニュース, 170: 30.
- 環境省(2012) 報道発表資料, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ), 添付資料, (別添資料7-5) 昆虫類のレッドリスト(平成26年12月2日アクセス) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
- 森 正人・北山 昭(2002) 改訂版 図説日本のゲンゴロウ, 231pp. 文一総合出版。

鈴木栄二氏がバナナトラップを中心に採集した岡崎産コメツキムシ

大平仁夫

旧岡崎市から知られているコメツキムシ類は、1983年の新編岡崎市史・自然14(動物)に58種が記録されている。その後に平成の大合併で額田地域が加わり、現在では95種内外になっている。これは、愛知県から記録されている種の約60%にあたる。

このたび、鈴木栄二氏が2014年にバナナトラップを中心に採集したコメツキムシ類を調べることができたのでここに記録する。なお、本文中の採集者はすべて鈴木氏本人による2014年の採集であるので、本文中での採集年、採集者名などは省略した。また、バナナトラップ以外で採集した種はその方法を記録した。



ペットボトルを利用したバナナトラップ (鈴木提供)

種の記録

1. オオクシコメツキ *Tetrigus lewisi* Candèze, 1873
標本: 2♂, 美合町, 6-VII; 同, 茅原沢町, 31-VII.
各地の森林に広く分布するよく知られた種である。灯火や樹液にはよく集まるが、日中は樹木の茂みや樹皮の隙間などに潜んでいるので、通常の採集では見出すことが少ない。岡崎市からは1995年5月14日に城殿 浩氏が採集の1♂の記録があるのみと思われる。
2. サビキコリ *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861)

標本: 1♀, 小美町, 25-V.

各地に広く分布する普通種である。

3. ホソサビキコリ *Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus* (Candèze, 1865)

標本: 2♀, 美合町, 24-V; 同, 1♀, 8-VI.

前種より少ない。すべて体長が20mm前後の大形個体であった。

4. ドウガネヒラタコメツキ *Corymbitodes gratus* (Lewis, 1894)

標本: 2♀, 池金町, 27-IV; 1♀, 夏山町, 28-IV.

山林性の種である。池金町周辺では、鶴巣から1980年4月10日の新編岡崎市史の中での記録があるのみである。ピーティングより得られた。

5. サトヤマシモフリコメツキ *Actenicerus kidonoi* Ôhira, 2006

標本: 2♀, 小美町, 11-V.

小美町からはこれが最初の記録と思われる。沼周辺のピーティングで得られた。

6. アカハラクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873)

標本: 1♀, 夏山町, 28-IV; 小美町, 2♂2♀, 11-V; 同, 1♂5♀.

幼虫が松の朽木で育つので、松樹のある社寺林などに多い種であるが、最近の松枯れで成虫の個体数は減少している。沼周辺のピーティングで得られた。

7. アラハダチャイロコメツキ *Reitterelater rugipennis* (Lewis, 1894)

標本: 1♀, 美合町, 3-V.

個体数の少ない種で、岡崎市内では本宮山から *Ectamienogonus* 属の種として記録があるのみである。通常は灯火や樹液に飛来した個体が見出されているが、詳しい生態などは判明していない。

8. ヨツキボシコメツキ *Ectinus (Ectinoides) insignitus insignitus* (Lewis, 1894)

標本: 1♀, 夏山町, 28-IV.

体長が6~7mmで黒色、上翅に4個の黄橙色斑

を有する特徴があるので、同定は容易である。旧岡崎市では、大平ほか(1985)による上衣文町からの記録があるのみである。林縁をビーテングして見出した。

9. ヒゲナガコムツキ *Mulsanteus unior unior*
(Candèze, 1873)

標本：岡町 3♂5♀, 8-IV; 美合町, 5♂1♀, 24-V.

各地の広葉樹林に分布する種で、成虫は日中は樹林の茂みの中にいるので採集しにくい。夜行性で灯火や樹液に集まる。幼虫は林床の腐葉土や腐朽の進んだ朽ち木中に生息している。

10. オオクロクシコムツキ *Melanotus (Spheniscosomus) crebricollis restrictus* (Candèze, 1865)

標本：1♀, 茅原沢町, 8-VI.

体長 19mm 内外で黒色の大形種である。畑地や周辺の雑木林で見出されるが、偶然に1~2頭が見出される程度で、比較的珍しい種である。旧岡崎市からは明大寺町と茅原沢からの古い記録があるのみである。

引用文献

大平仁夫ほか(1985) 岡崎市の動物, 新編岡崎市史(自然, 14):653-1218.

大平仁夫(1989) 本宮山のコムツキについて, 三河の昆虫, (36):261-263.

大平仁夫(1999) 城殿 浩採集の三河地方のコムツキムシ, 三河の昆虫, (46):469.

岡崎市におけるクロカタビロオサムシの採集例

鈴木 栄 二

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (Morawitz) (図) はブナ林、低山地の古い雑木林に生息し、鱗翅目の幼虫を捕食する。三重県(2005)では絶滅危惧Ⅱ類、岐阜県(2001)では、準絶滅危惧種、滋賀県(2005)では、要注目種に指定されている。

愛知県では千種区自由が丘(1977 他)、犬山市(1988)、豊田市(2005 他)の記録があるが、少ない種であると思われる。

2014年は春季に鱗翅目の幼虫が、岡崎市内で大発生し、その影響からか、クロカタビロオサムシの姿をみる機会が増えたように思われる。従来の記録も含め、ここに報告する。すべて鈴木が採集し、標本も保管している。

採集データ

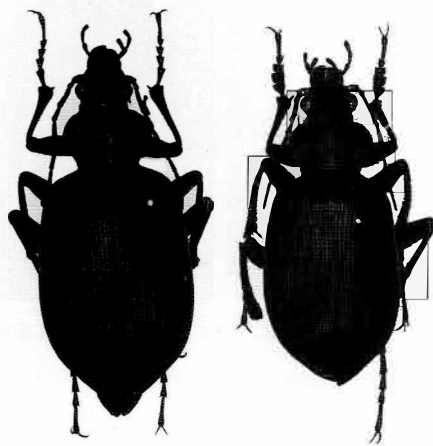
1♂, 30-V-2000(奥殿町)(図右)

2♂, 11-V-2014(小美町)

1♀, 14-V-2014(茅原沢町)(図左)

2♂, 24-V-2014(茅原沢町)

1♀, 08-VI-2014(茅原沢町)



引用文献

愛知県(1990) 愛知県の昆虫(上).

岐阜県(2001) 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物.

三重県(2005) 三重県レッドデータブック 2005.

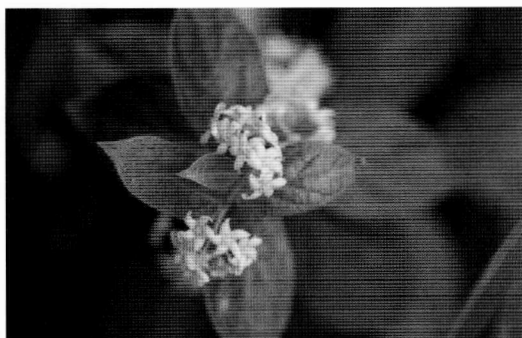
滋賀県(2005) 滋賀県で大切にすべき野生生物.

豊田市(2005) 豊田市自然環境基礎調査報告書.

篠島採集記

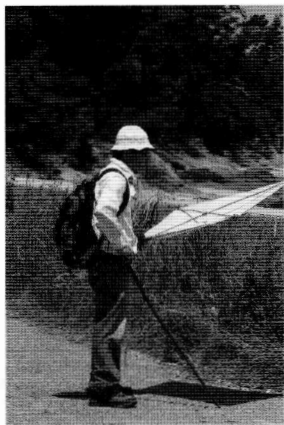
判 家 卓 司

2014年6月1日(日)晴れ。今日も暑くなりそうだ。久しぶりに知多半島の師崎に到着したのが9時前。駐車場脇で、アサギマダラが一頭飛び去るのを目撃。北上個体ではないだろうが、まだ他にもいるかもと羽豆岬を一周した。しかし、イヨカズラの花を発見しただけで、アサギマダラは見つけられず。



(イヨカズラ)

うろろしているうちに、浅岡・山崎両大先輩が到着。今日の目的地は篠島。高速船で10分。あっという間に到着。日差しがきつい。



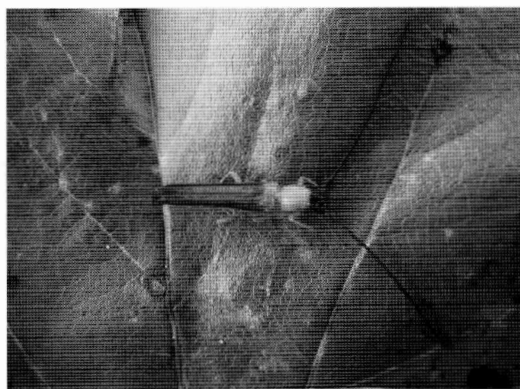
(採集中の浅岡氏)

浅岡氏はオオキンカメムシがいるはずと仰るので、「オオキン、オオキン」とつぶやきながら、ご一緒させていただく。ご両名ともピーティングに忙しい。採集せずに撮影専門の自分は、両名のそばをうろちょろする。



(採集中の山崎氏)

山でしか見かけないカメノコテントウを発見して驚いた。また、発生時期なのか、リングカミキリがあちこちで見つかる。カメラを向けると、その脇で山崎氏は、「これでも大きすぎる」とつぶつぶつ。より小さい方が研究心を刺激されるのか、「小さすぎて写真に撮れません」と嘆く自分の声など聞き流し、マイクロサイズを喜々として採集している。

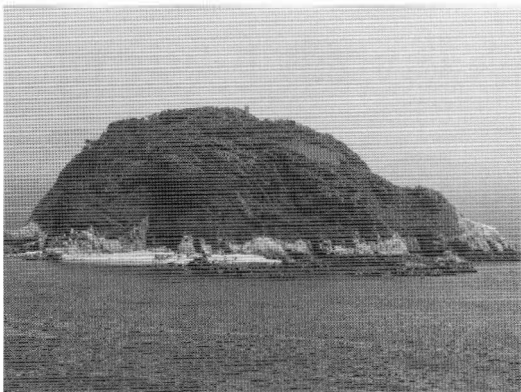


(リングカミキリ)

浅岡氏が、野島が見えるところで、「あの島からこちらまで、飛んでくるはず」と仰るので、血眼で探し回るが見つけれず。

すると、「いたよう」と浅岡氏。初めてオオキンカメムシを見ることができた。大きい。美しい。先達はあらまほしきとは、この事か。

この環境ならこれがいるという経験値。そして、



(篠島から望む野島)

ここならいると感じる感性。「ここにいるはず」と探し、「やっぱりいた」と、ちゃんと見つけるところに、大先輩の底力を見た。

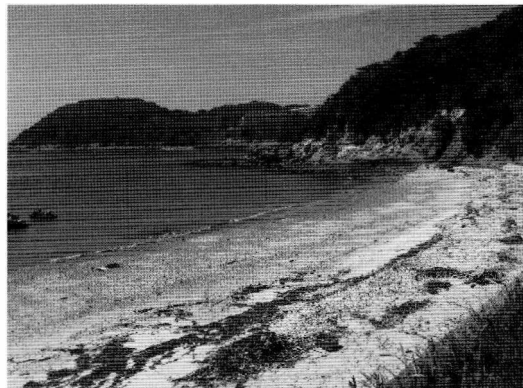


(オオキンカメムシ)

目的であった、オオキンカメムシにも会え、暑い中、歩き回った甲斐があった、有意義な一日となった。

個人的に昨年は、佐久島に出かけ、今年は採集会で篠島に行くことが出来た。三河湾の島々ももしろい環境であることは間違いない。

島嶼の調査は、渡航が厳しければ厳しいほど成果は期待できそうで、島巡り、今後も続けていきたいと思った一日であった。



(篠島の砂浜)

愛知県岡崎市におけるエゾトンボの記録

山本 栄 治

愛知県内のエゾトンボは吉田らの分布表2012*1によると県内54市町村のうち8市町から記録されているが、その中に岡崎市は含まれていない。筆者は岡崎市内でエゾトンボ♀個体を採取しているので報告しておく。

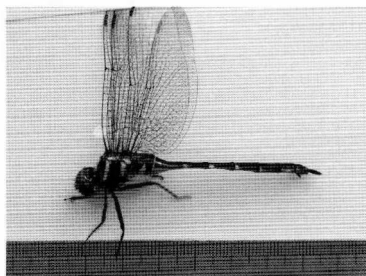
採取した個体は2013年4月に採取したヤゴより同年6月に羽化させて得たものである。

<データ>

エゾトンボ *Somatochlora viridiaenea*

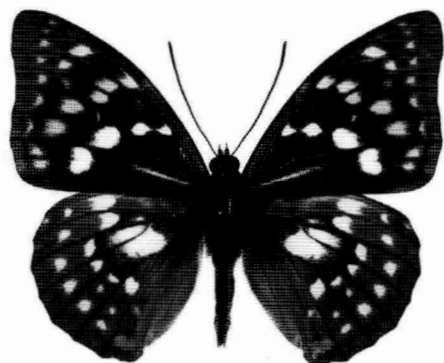
1♀ 愛知県岡崎市池金町 6.VI.2013 羽化

(8.IV.2013 幼虫採取)



引用文献

*1 吉田・鞆殿 愛知県市町村別トンボ分布表2012
Aeschna. (49) 2013

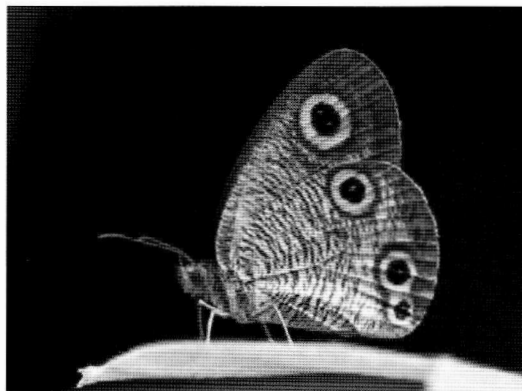


<記録>

- ・岡崎市須渕町, 1971.7.2, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市茅原沢町, 1979.6.21, 1♂, 三浦重光
- ・岡崎市須渕町, 1981.6.25, 1♂, 香名 誠
- ・岡崎市真福寺町, 1998.6.23, 1♀, 小鹿 亨
- ・岡崎市秦梨町, 2009.6.25, 1♂, 杉坂美典
- ・岡崎市真福寺町, 2011.7.30, 1 ex, 三浦重光

年代からは記録が少なくなり、成虫の記録はほとんどない。幼虫の分布調査では、乙川や男川の堤防付近に生えるエノキの周辺で、年間、数頭が見つかる程度である。

(22) ウラナミジャノメ



<記録>

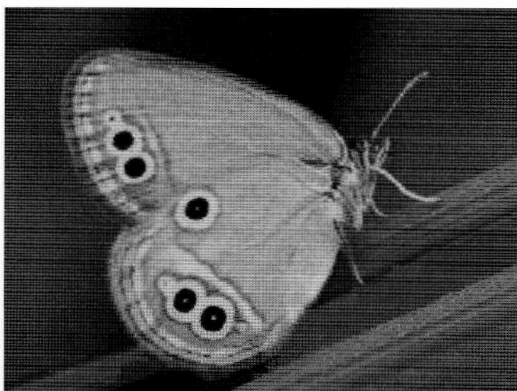
- ・岡崎市大幡町, 1967.6.14, 2♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市大幡町, 1968.6.15, 1♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市上池金町, 1970.6.20, 1♀, 高橋 昭
- ・岡崎市(非公開), 2001.6.25, 1♂, 鈴木栄二
- ・岡崎市(非公開), 2001.9.14, 1♂, 鈴木栄二
- ・岡崎市(非公開), 2009.6.14, 2♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市(非公開), 2010.7.11, 2♂♂, 杉坂美典
- ・岡崎市(非公開), 2010.9.12, 3♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市(非公開), 2011.9.4, 1 ex, 杉坂美典

1968年までは、岡崎市大幡町の湿地で、かなりの数の個体が発生していたが、1969年に湿地が埋め立てられたことによって絶滅した。池金町のも

のは、1980年代に湿地が乾燥化した際に姿を消した。

岡崎市の未公開の発生地は、以前はかなり大きな湿地であったが埋め立てられ、その一部が50㎡程度の小さな湿地として残っているものである。しかし、湿地の環境はあまり良い状態でなく、周辺の田畑の農薬の散布等の影響を受け、いつ絶滅してもおかしくない状況である。2010年までは、かなりの数の個体を確認でき、2011年9月4日に1頭を確認できたが、2012年6月中旬から7月中旬にかけて、5週連続で調査し、8月下旬から9月上旬にかけても調査したが、全く見つからなかった。

(23) ヒメヒカゲ



<記録>

- ・岡崎市大幡町, 1967.6.14, 3♂♂1♀, 杉坂美典
- ・岡崎市大幡町, 1968.6.15, 6♂♂2♀♀, 杉坂美典
- ・岡崎市大幡町, 1968.6.18, 4♂♂1♀, 杉坂美典

大幡町では、村落の端にある雑木林に面した小さな湿地に生息していた。湿地の道路に面する側には、背の高い草が生い茂り、湿地を見つけにくい状態で採集圧もなく、1968年には数十頭が発生していた。しかし、翌年、湿地が全て埋め立てられ、本種は絶滅した。

現在、埋め立てられた場所は、空き地になったままであり、本種を保護することができなかったものかと残念で仕方がない。

池金町では、少ないながらも北山湿地の各所で見られたが、1980年前後に湿地が乾燥し草原化した時に姿を消した。

(〒444-0915 岡崎市日名南町18番地1)

段戸裏谷で採集した2種のコメツキムシ

大平 仁 夫

愛知県の段戸裏谷にはブナ原生林があり、往時は段戸一帯が原生林であった。今はその一部が保護林として残されているが、最近この老木枯死が連鎖的に発生し、この伐採によって昔の森林の面影が薄れている。2014年5月にここを訪れて話題の2種のコメツキムシを見出したので記録する。

この採集に同行して支援をいただいた山崎隆弘氏に心から御礼を申しあげる。

1. *Actenicerus pruinus* Motschulsky, 1861

シモフリコメツキ (図 1)

体長 13~14mm 内外で、やや赤味をおびた真鍮色の金属光沢を有する種で、一般に牧草地や開けた山地の草地に見出される種である。恐らく原生林の枯死木の伐採と道路などの整備、原生林が明るくなり乾燥化が進んでいるためではないかと思われる。こんなものがここにいるようになったかと思われるような種である。

標本：3♀、10-V、2014、大平採集。

2. *Limoniscus niponensis yamato* (Lewis, 1894)

ヤマトカネコメツキ (図 2)

体長 14mm 内外、暗い真鍮色の金属光沢を有する種である。最初に北海道から新種として記載されたが、現在では本州や九州（北部地域）にも分

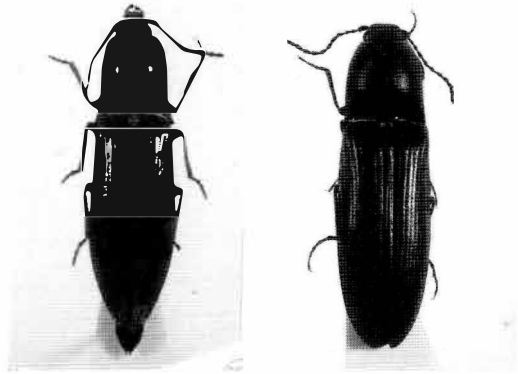


図 1. シモフリコメツキ (♀) 体長 14mm

図 2. ヤマトカネコメツキ (♀) 体長 12mm

布記録があり、学名も本州産は北海道産と別種とする考えもあるが、ここでは別亜種として扱うことにした。愛知県の北設山岳地帯からは本種は点々と記録されており、ここからは大平 (1992) による 1 例の記録があるのみで、まだよく残っていたと思われる寒冷地系の種である。

標本：1♀、10-V、2014、山崎採集。

引用文献

大平仁夫 (1992) 穂積俊文先生採集のコメツキムシ標本、三河の昆虫、(39): 343-348.

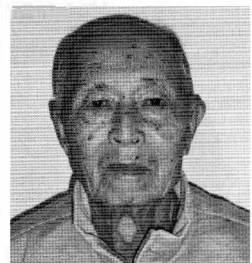
新シリーズ・昆虫と私 (19)

原 田 一 夫

私が『三河昆虫研究会』に入会したのは、調査で採集した昆虫を教えて欲しいのと息子の研究を理解したい為でした。だが現実には鳳来寺山自然科学博物館の行事で、大平先生が説明しておられる時に貝の事ばかりやっている不届き者でした。

今回再入会したのは、ほけ防止ともう一度研究心を奮い立たせたい為です。こんなほけ老人です

が皆さんと一緒にがんばりたいと思いますので宜しくご指導のほどお願いします。



新シリーズ・昆虫と私(20)

原 田 究



昆虫に関わるきっかけとなったのは、3歳の頃で、父が元刈谷の貝塚の発掘から蟬の幼虫を持って帰って来た時でした。その時に見た蟬の幼虫と成虫の違いに魅了され、昆虫採集をするようになっていきました。

幼稚園に上がった頃には父が子供の時に使っていたスプリングネットや三角ケース、台湾や樺太が日本の領土だった頃の昆虫図鑑(全3巻)を譲り受けて、自宅周辺で採集した昆虫を標本にして同定するのに夢中になっていました。採集が出来ない時は、図鑑を読みあさり、コウトウキシタアゲハやフトオアゲハ、ヨナクニサン、タカサゴミヤマクワガタ、タイワンシロスジカミキリ、タイワンダイコクコガネ等の迫力に魅了され採集に行くのを夢見ていました。

当時は、殺虫管を持っていなかったもので、ワンカップ大関の瓶に脱脂綿で包んだナフタレンとベンゼンを入れてお手製の毒瓶を作り、甲虫を入れて標本にしましたが、甲虫の手足が硬直して、展翅の際に形を整えるのに苦労したものです。小学4年の7月に本会に入会させて頂き、大平先生から研究室に置いてあった酢酸エチルを分けて頂いて展翅が嘘のように上手にできて楽になったのを覚えています。

小学5年には、西尾にあるトヨタの工場建設予定地の環境アセスメント調査に、父に同行したついでに参加させて頂いたり、小学6年には、鳳来

寺山自然科学博物館の第1回自然を学ぶ会の2班に分かれた片方の昆虫担当として、大平先生から急遽指名を受けて手伝わせて頂いたりと恵まれた環境で充実した昆虫少年時代を過ごさせて頂きました。

中学でバスケット部に入った事で、父の調査活動に同行出来なくなり、父の逆鱗に触れて昆虫活動の一切を禁じられ、昆虫に関わる事が全く出来なくなりました。

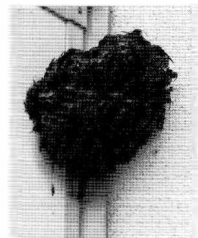
25歳のときに脳にウイルスが入って死に損なった時に、昆虫に対する思いが抑えきれなくなり、再び入会させて頂きました。それからは、リハビリ時の数回を除いては、仕事に忙殺されて昆虫採集をする機会もなく、本会の会誌や学会誌などをときどき読むぐらいで今日に至りました。

父の介護の関係で生活の重点を東京から刈谷に移した事で、父のリハビリと称して本会の総会にもやっと出席することができました。

そんなわけで、40年近くのブランクを経ていきますので、昆虫のことは小学生の当時より遙かにレベルが低く今から始めるという感じですが、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

巨大なセグロアシナガバチの巣

筆者の居住する市営住宅の1Fのベランダに図のような巨大なセグロアシナガバチの巣が見つかった(2014年9月11日)。巣は15×14cm(巣の育室は約140)あったが、育房には幼虫はいなく、巢面に図のように成虫が多数群がっていた。このような巨大な巣は珍しいと思われるし、住人が出入りするベランダの窓際の壁で無事に育っていたのも不思議なことである。(大平仁夫)



高柳久和さんを偲んで

浅岡孝知

故高柳(旧姓山内)久和先生の訃報に当たり、先生のことを述べたいと思います。小生にとっては学生時代からお付き合いをさせていただきました大先輩です。山内家具店で作っていたドイツ型標本箱も利用させていただきました。桐製で軽く扱いやすかったです。今でも使っています。その後、先生が中心となって豊根村の動物が纏められました(図左)。多くの三河昆虫研究会の方々が参加され1980年に発刊されました。2013年に豊根村の調査をしていて、地元の方から話しかけられました。その方は当時豊根村に赴任していた高柳先生の教え子さんでした。とても懐かしい話を伺いました。それから、豊川市史の編さんがあり、動物部門の会長として精力的に纏められました(図中)。そして、豊川市に合併になる前の小坂井町の代表的な樹木・巨木を、町民に親しみやすく紹介をされました(図右)。

蛾類や直翅類だけでなく植物にも精通されてい

て、特に薬草を中心とした野外教室を毎年されてきました。愛知だけでなく静岡、長野、岐阜などに広くフィールドを持っていました。

NHK豊橋、浜松などで多くの講座を担当されていました。トークでは絶妙の間合いが人を引き付けていました。長い間ご指導をありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。



図：高柳先生の思い出の印刷物

伊藤昭博さんを偲んで

大平仁夫

伊藤昭博さんは、愛知教育大学農業教室の第12回生(昭和39年3月卒)で、昆虫教室の神谷一男教授のもとで昆虫学を専攻、卒業後には主として蒲郡市の学校の教師に赴任され、地域の昆虫類や御堂山の県指定天然記念物のヒメハルゼミの調査などもされていたが、昭和41年(1966)に愛知教育大学八重山諸島自然科学調査団に加わり、沖縄本島と八重山諸島の調査に従事、三河昆虫同好会や三河生物同好会の会員としても調査に活躍されていた。

教職を終えてからは、規子夫人と各地の山野を



立山にハイキングの伊藤さん(右)と規子夫人(2013-10-15)

旅行し、デジカメで昆虫や草花などを撮影され、最近では心臓発作予防のニトロを所持しての活動であった。

伊藤さんは物事の判断が早く、会議などでは伊藤さんの一言で終わることが多く、伊藤さんの存在は会には貴重なかけがえのない方でした。調査団の報告書「はてるま森」第1集(1967)の団員プロフィールには、伊藤さんについて「現地では毎晩オリオンビールをお茶代わりにし、思ったことをずばずば言い、行動力に富み、頭の回転が早く、飯をくうのが早いことにかけては超人的」と紹介されているが、物事の要点を的確に判断して処理する能力は抜群で、多くの方に信頼を得ておられた。そして、人生をさわやかな朝霧のように走り抜かれたように思われる。規子夫人は「主人は心

配していた心臓ではなく、胆石で亡くなるとは思っていませんでした」と述べておられたが、これも伊藤さんらしい終末ではなかったかと思われる。

なお、伊藤さんについては下記の報文があるので、参照して下さい。心からご冥福をお祈りします。

(伊藤先生の思い出の印刷物)

- 1). 新シリーズ：昆虫と私(13). 三河の昆虫(59):778. 2012.
- 2). 長野県平谷村長者峰・高嶺採集会. 三河の昆虫(60): 803. 2013.
- 3). 竜頭山採集記. 三河の昆虫(61): 826. 2014.

昆虫の異常発生を記録に残しましょう

最近の気温の温暖化による異常気象現象と、ナラやクヌギ類の老木の枯死や雑木林のブランコケムシの異常繁殖が続いていて、それを捕食するクロカタビロオサム(図)が何頭も見られました。それに代わって、いつも道路上を歩いていたミカワオサムの姿は見られなくなっています。昆虫の発生や生態を記録して後世に残しておきましょう。(大平仁夫)

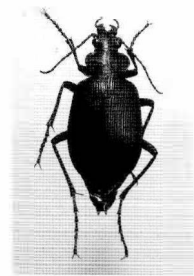


図. 北山湿地のクロカタビロオサムシ♂(体長22mm.)
(17-V-2014, 大平採集)

◇平成25(2013)年度の総会◇

平成25年度の三河昆虫研究会の総会は、平成26年3月22(土)の午後13:00から例年の岡崎市明大寺町の竜美丘会館302号室で開かれました。今年も例年のように25名もの会員の出席があり、お互いに旧交を温め合い、大場先生による新しい研究の話題提供もあり、楽しい総会でした。中でも原田一夫さん父子は久しぶりの出席でした。



出席者：前列(向かって右より)：長谷川道明、松井直人、桐山 功、大場裕一、大平仁夫、原田一夫、杉坂美典、小鹿 亨、(後列向かって右より)豊島健太郎、戸田尚希、伊藤昭博、蟹江 昇、白井和伸、杉浦 昌、久永和彦、金田吉高、喜多亮介、水野 宏、原田 究、山本英治、市川靖浩、大曾根 剛、川瀬英夫、吉鶴靖則、山崎隆弘。